

**平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業  
最終評価表**

実施団体	NPO 法人だっぴ		
協働部署	教育委員会 指導課	教育委員会 生涯学習課	
記入日	2018 年 3 月 30 日		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
事業提案書に記載された「期待する事業成果・目標値等」または事業を通じて意識されていた目標を一枠に一項目ずつご記入ください。	「成果・目標値等」に対する結果をご記入ください。	「目標に対する結果」に至った要因や工夫されたこと、うまくいかなかったことなどをご記入ください。
市内 5 中学校でのだっぴ開催と参加者の自己肯定感や地域愛着の増加(アンケート把握による)	平成 29 年度事業として市内 4 中学校でだっぴを実施した。当初開催を予定していた 1 校より参加者集めに係る時間の問題で辞退の申し出があった。 また、だっぴ前後に実施したアンケートでは参加した中学生の「自己肯定感」や「地域愛着」の変化が確認されている。	昨年度顕在化した「学校側の負担感」に対して、事業開始時点で具体的な解決策を講じることができなかったことから 1 校が実施を辞退することとなったが、今年度事業で検討・実現した「開催マニュアル」や「地域主体との協働開催」が学校負担の緩和・解決につながることを期待できる。また、だっぴ開催前後の中学生の変化については 3 年間を通じて肯定的な結果が得られたため、だっぴのキャリア教育プログラムとしての有効性を示す情報として継続的に活用していきたい。
地域での開催を拡げていくための、開催マニュアル作成と公表	学校のみでなく、地縁組織などの主催を想定した開催マニュアルを作成・公表した。	3 年間の協働事業で実践・検証・改善が重ねられたプログラムのノウハウをわかりやすくまとめたマニュアルを作成することができた。マニュアルについてはすでに多くの組織・個人から問い合わせや提供依頼が届いており、次年度以降の波及効果が期待される結果となっている。また、実施団体が基礎情報をまとめ、協働部署がわかりやすく、つたわりやすい文章に編集するなど、作成工程においてもそれぞれの得意分野を生かした役割分担をはかることができた。
これまでの事業成果のまとめと、報告会の開催(今後協働を広げていくための関係者を広く集める)	不特定多数を対象とした報告会ではなく、学校側の意思決定に深く関わる教職員を対象としてだっぴの認知向上をはかることを優	教職員に情報を提供できる機会は決して多くないため、副校長・教頭会議にて直接プログラムを紹介できたことはこれからの広が

	先して、2018年1月に開催された市内中学校の副校長・教頭会議への参加をもって報告会の代替とした。また、新年度開始後にはキャリア教育担当教職員を対象とした会議にてだっぴを紹介する予定である。	りに期待が持てる重要な取り組みであった。一方で事業紹介の時間や回数には限りがあり、詳細な説明や個別の対応はできないため、実施団体と担当部署によって継続的に問い合わせ・相談に応じられるように継続して情報交換をはかる必要がある。
大学や企業との連携による協力ボランティアの確保	平成29年度事業では県内5つの大学でボランティア募集を行ったほか、ひとつの大学で授業を通じてプログラムの紹介とボランティア募集を実施することができた。結果として98名が新規にキャスト登録しており、来年度も今年度(数・人数)以上のプログラムが実施可能な体制を構築することができた。また、2つの市内事業者との関わりを深めており、継続的・安定的に協力が得られる見込みである。	新聞等のメディアでプログラムの意義や効果が発信される機会が増えているほか、中学生へのアンケート結果を発信し続けている効果もあり、大学や企業からの理解や協力が得やすくなっている。

## 2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体のみに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 協働部署のみに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)

自主性及び自立性尊重の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)
公開の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた